



# 虹の架け橋

平成30年6月18日  
印西市立西の原小学校  
校長室便り No. 8

## 家庭教育学級開級式

6月12日(火)家庭教育学級の開級式を行いました。開級式は、1年生保護者役員の方々の企画・運営で大変円滑に行われました。また、講師の先生の講話により、実りの大きいものになったのではないかと思います。

開級式の私の挨拶では、東海道新幹線内で3人が殺傷された事件に触れました。容疑者の実母は、凄惨な事件を起こした容疑者に対して「私なりに愛情をかけて育ててきました。」とコメントしました。親であれば我が子はかけがえのない宝であることには間違いないと思います。子どもたち一人一人の人格の完成を目指し、子どもたちが将来にわたって幸福な生活を営んでいく上で不可欠なものである教育にとって、学校と家庭との連携はとても重要です。悲しい事件が起こるたび、学校でできる家庭教育や保護者への助言や支援とは何だったのだろうと考えさせられます。

さて、開級式には、お二人の講師の先生をお迎えしました。

篠原先生には「そうふけっばらのきつね」という印西の民話を語り聞かせて頂きました。見事な語りで、多目的ホールはそうふけっばらに代わり、篠原先生がきつねに見えてきたように感じました。印西に伝わる民話・伝説、伝承を子どもたちにも聞かせ、ふるさとを慈しむ気持ちを育てていきたいと強く感じました。

元西の原小学校の校長先生で、西の原小の子どもたちや保護者の方、地域の方をこよなく愛する小島洋子先生からは、子育てについて講話を頂きました。子育てで大切なポイントは①安定した気持ちで子どもに接すること。～イライラしない～②子育てのゴールは「幸福力」を育てること。③年齢と成長に応じて「子育てのギアチェンジ」をすること、です。さらに、小学校入学から卒業までの子どもの成長や1年生の特徴、ほめ方・叱り方などを聞かせて頂きました。先生にはご自身の子育て・孫育て、そして教諭・管理職として様々な立場から、身近なできごとを例にお話をして頂きました。先生のテンポの良い話し方とリアルな話題のおもしろさに、会場からは笑いの渦が何度も起こるとともに、納得の顔があちらこちらに見られた、あっという間の時間でした。

子育てには「これでいい」という明快な答えはないと思います。ただ、私自身は常に自己肯定感のある子に育てたいと思っています。「自分なんていなくなればいい」という思いで生きていることこそ悲しいことはないでしょう。それには、小島先生のおっしゃったように、完璧を求めすぎないことや、「あなたは大切な人なのだ」という思いで接すること、兄弟や他の子と比べないことなどが大切になると思います。



# 子どもの自己肯定感を高めるために

## 家庭の中での感謝の言葉かけ

ご家庭の中で、感謝の言葉をかけ合っていますか？

掃除、洗濯、ゴミ出しなど家庭の中の仕事は家族間では「当たり前の仕事」になってはいないでしょうか。私自身、掃除や洗濯をしても感謝の言葉をかけられたことは思い出せません。(なかったかも?) 反対に、ゴミ出しをしてもらっても感謝の言葉をかけていたか問われると、こちらも思い出せません。(始めの頃はかけていたと思うのですが...) 振り返ってみると、我が家ではいつの間にか家事は当たり前の仕事になっており、家族間で感謝の気持ちを現すことが少なくなりました。

感謝の言葉をかけられると、自分は人の役に立っていると嬉しくなることはありませんか？それが自己有用感になり自己肯定感を高める一つの方法になるのではないかと思います。

子どもの自己肯定感を高めるためには保護者の皆様自身の自己肯定感を高めることが重要です。「親は子の鏡」とはよく言ったもので、保護者の方が満たされない思いをしていたらそれは自然に子どもに伝わってしまいます。家族が明るく元気であれば、子どもも明るく元気になります。家庭で互いに感謝する「ありがとう」の言葉が行き交うようになると、それぞれが自分の存在を肯定的に思えるようになると思います。お母さんお父さんおじいちゃんおばあちゃん...今まで「当たり前」と思っていたことは、実は当たり前ではなくお互いのおかげなのだ、我が家でも、感謝の言葉かけが自然にできるようにしていきたいと思います。

## 自己肯定感を高める

※インターネットサイト「心理カウンセラーの種」より

### 自己肯定感が低い要因

- ①虐待を受けた経験がある。
- ②褒められる・認められる機会が少なかった。
- ③自分で選択する機会が少なかった。
- ④過保護に育てられた。
- ⑤子ども時代に親が話をあまり聞いてくれなかった。

③自分で選択する機会が少ないというのは、親が教育のためと部活動や習い事、進路などを本人の意志を無視して決めてしまうことで、その場合自分は尊重されている感覚を持たずに自己肯定感が低くなってしまいます。

④過保護に育てられた」というのは、親が子供に怪我をさせないように、少しでも危険な事をしようとするのを止めたり、チャレンジ出来ないようにしたりすることで、そうすると子どもは「自分にはこれができる」という自信が付きません。『過保護に接するということは、「あなたにはそれが出来ない」という裏返しのメッセージにもなる。』という言葉が印象に残りました。

子どもの自己肯定感を高めるためには、上記の要因を取り除く、すなわち①虐待しない②ほめる・認める③子どもが自分で選択する機会を多くする④過保護にしない⑤子どもの話をよく聞く。ということがポイントになるでしょう。自己肯定感には特に自分が決めた事を達成できると高まっていきます。子どもの意思を尊重し、やり遂げられるようにそばで見守っていきましょう。

ホームページの閲覧数が6月12日に200万を突破しました。閲覧をありがとうございます。今後も学校の様子をお伝えしていきます。どうぞよろしくお願ひいたします